

【資料 1 - 5】

青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
地区意見交換会（下北）における主な意見
<整理案>

平成 29 年 1 月 23 日

目次

| | | |
|-------|---|----|
| 1 | 下北地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み..... | 1 |
| 2 | 全日制課程の学校規模・配置に関する意見..... | 2 |
| (1) | 重点校、拠点校、地域校について..... | 2 |
| (2) | 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション..... | 3 |
| ア | 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合..... | 3 |
| イ | むつ工業高校を拠点校として配置する場合..... | 5 |
| ウ | 第1期実施計画期間中は大湊高校とむつ工業高校を統合して新設校を配 置し、第2期実施計画期間中に川内校舎を募集停止とする場合..... | 7 |
| エ | 第1期実施計画期間中に川内校舎を募集停止とする場合..... | 9 |
| (3) | その他の意見..... | 11 |
| 3 | 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見..... | 11 |
| 【参考1】 | 委員名簿（下北地区）..... | 12 |
| 【参考2】 | オブザーバー名簿（下北地区）..... | 12 |
| 【参考3】 | 地区意見交換会の開催状況（下北地区）..... | 13 |

2 全日制課程の学校規模・配置に関する意見

(1) 重点校、拠点校、地域校について

① 重点校

- 重点校の学校規模の標準は1学年当たり6学級以上となっているが、学校運営を経験した立場として妥当だと考える。(第1回)
- 下北地区で不足している医師の確保や選抜性の高い大学への進学を目指すため、下北地区には重点校が必要である。(第1回)
- 下北地区の学校規模・配置は、現状がベストだと思うが、1学年5学級で重点校となる田名部高校については、手厚い教職員の加配をお願いしたい。(第1回)
- 医学部進学コースの設置を含めた医師を志す高校生の教育環境への配慮として、単に重点校を配置するだけではなく、具体的な取組を示してほしい。(第1回)
- 選抜性の高い大学への進学に対応した学校は不可欠だと考えている。(第2回)

② 拠点校

- むつ工業高校は、原子力関連産業に多数の卒業生を送り出しているという実情があることから、個人的にはむつ工業高校が工業科の拠点校にならないものかと考えている。(第1回)
- 専門的な学習を深め実績を築いている高校生の活躍は、県が目指す未来を担う人材育成そのものだと思う。(第1回意見等記入票)

③ 地域校

- 大間高校を地域校として存続していく方向性は嬉しい。(第1回)
- 大間町でも大学等への進学を考える保護者が増えており、地域校としての大間高校の役割は非常に重要だと考えている。(第1回)
- 重点校と地域校が連携して取り組む体制を取り入れると、高い学力の生徒も大間高校で学習できると思う。(第1回)
- 大間高校が募集停止となることは、北通り地区にとっては考えられないことであり、特段の配慮をお願いしたい。(第1回)
- 地域の公共交通機関の状況を考えると、大湊高校川内校舎も地域校として残していただくことを切望する。(第1回意見等記入票)
- 基本方針の「募集停止等に向け」は過激な表現だと思う。例えば、「存続の可能性等について」という表現に修正してほしい。(第1回)
- 2学級規模の地域校について、「入学者数が40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として1学級規模とします。」とあるが、その後の中学校卒業者が増加する見込みであるならば、柔軟な対応をお願いしたい。(第1回)

(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

| | 第3次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|-----|-------------|------------------|-------------|-----------|-------------|
| | | 第1期実施計画 | | 第2期実施計画 | |
| | H29 | | H34 | | H39 |
| 重点校 | 田名部 5学級 | | 田名部 5学級 | | 田名部 5学級 |
| | 大湊 5学級 | △3学級 → | 大湊 ○学級 | △1学級 → | 大湊 ○学級 |
| | むつ工業 4学級 | | むつ工業 ○学級 | | むつ工業 ○学級 |
| 連携校 | 川内校舎 1学級 | | 川内校舎 1学級 | | 川内校舎 1学級 |
| 小計 | 15学級 | △3学級 → | 12学級 | △1学級 → | 11学級 |
| 地域校 | 大間 2学級 | | 大間 2学級 | | 大間 2学級 |
| 合計 | 17学級 | △3学級 → | 14学級 | △1学級 → | 13学級 |

① シミュレーションの基となった意見

- 小規模校も細やかな指導を続けており、将来の学校規模・配置から除かれることのないよう強く要望する。（第1回）
- 地域の公共交通機関の状況を考えると、大湊高校川内校舎も地域校として残していただくことを切望する。（第1回意見等記入票）
- 基本的には現状維持の学校配置をお願いしたいと考えている。生徒数の減少が分かっている中、学校の小規模化が進むことは仕方ないことだと思う。（第2回）
- 全ての学校を残すことを考えていきたい。（第2回）

② 期待される効果等

- 現在の下北地区の学校配置は、バランスが良く、生徒の進路の選択肢が確保されていると考える。（第1回）

③ 更に検討を要する課題等

- 平成29年からの5年間で下北地区の中学校卒業生数が約100人減少することを踏まえると、学級減のみの対応で良いのかということを考えなければならない。（第1回）
- 平成39年度までに大湊高校とむつ工業高校を合わせて4学級の減となった場合、田名部高校以外は全て小規模校になってしまう。そのような状況で、子どもたちが夢や希望を持って高校生活を過ごすことができるのか。（第2回）
- 現状の学校配置を維持することが一番良いと思うが、生徒数の大幅な減少への対応ということを考えると、現状の学校配置を維持することは難しいと感じた。（第2回）
- むつ工業高校を拠点校としない場合、同校の位置付けが心配である。（第2回）
- むつ工業高校が拠点校ではないとしても、小学科として特色ある学科を設置し、子どもたちがしっかり先々のことを考え、資格取得できる環境が整備されていれば有り難いと思う。（第2回）

イ むつ工業高校を拠点校として配置する場合

| | 第3次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|-----|-------------|------------------|-------------|-----------|-------------|
| | | 第1期実施計画 | | 第2期実施計画 | |
| | H29 | | H34 | | H39 |
| 重点校 | 田名部 5学級 | | 田名部 5学級 | | 田名部 5学級 |
| 拠点校 | むつ工業 4学級 | | むつ工業 4学級 | | むつ工業 4学級 |
| 連携校 | 大湊 5学級 | △3学級 → | 大湊 ○学級 | △1学級 → | 大湊 ○学級 |
| | 川内校舎 1学級 | | 川内校舎 ○学級 | | 川内校舎 ○学級 |
| 小計 | 15学級 | △3学級 → | 12学級 | △1学級 → | 11学級 |
| 地域校 | 大間 2学級 | | 大間 2学級 | | 大間 2学級 |
| 合計 | 17学級 | △3学級 → | 14学級 | △1学級 → | 13学級 |

① シミュレーションの基となった意見

- むつ工業高校は、原子力関連産業に多数の卒業生を送り出しているという実情があることから、個人的にはむつ工業高校が工業科の拠点校にならないものかと考えている。(第1回)
- むつ工業高校は県の工業教育を牽引する拠点校となってほしい。(第2回)
- むつ工業高校には設備・エネルギー科があり、地元の産業に直結した学科があるという観点から、むつ工業高校を拠点校とするべきと考えている。(第2回)

② 期待される効果等

- 子どもたちがしっかり資格取得に取り組むことができ、自らが資格を持つことにより将来の道を切り開くことができる専門高校も、重点校と同様に必要だと思う。(第2回)

③ 更に検討を要する課題等

- むつ工業高校を拠点校とした場合、大湊高校と川内校舎の学級減が非常に厳しくなってしまう。その場合、大湊高校における総合学科の役割が維持できるかどうか危惧している。(第2回)
- 平成39年度に大湊高校と川内校舎を合わせて2学級となるが、質の高い高校教育を維持することができるのか危惧している。(第2回)
- 大湊高校と川内校舎を合わせた学級数が半減するという事は、激変だと思う。(第2回)

ウ 第1期実施計画期間中は大湊高校とむつ工業高校を統合して新設校を配置し、
第2期実施計画期間中に川内校舎を募集停止とする場合

| | 第3次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|-----|-------------|------------------|----------------|-----------|----------------|
| | | 第1期実施計画 | | 第2期実施計画 | |
| | | H29 | | H34 | |
| 重点校 | 田名部 5学級 | | 田名部 5学級 | | 田名部 5学級 |
| 拠点校 | 大湊 5学級 | △3学級 → | 新設校 総合学科○学級 | | 新設校 総合学科○学級 |
| 連携校 | むつ工業 4学級 | | 工業科○学級 6学級 | | 工業科○学級 6学級 |
| | 川内校舎 1学級 | | 川内校舎 1学級 | △1学級 → | 川内校舎 募集停止 |
| 小計 | 15学級 | △3学級 → | 12学級 | △1学級 → | 11学級 |
| 地域校 | 大間 2学級 | | 大間 2学級 | | 大間 2学級 |
| 合計 | 17学級 | △3学級 → | 14学級 | △1学級 → | 13学級 |

① シミュレーションの基となった意見

- 総合学科と工業科は、下北地区において絶対に必要とされているため、生徒の進路の選択肢の確保という観点から、大湊高校とむつ工業高校の統合というものを検討していくことが必要だと思っている。(第2回)
- 川内校舎の配置について考えると、大湊高校とむつ工業高校の統合を視野に入れて考えていくのが良いと思う。(第2回)

② 期待される効果等

- 大湊高校とむつ工業高校を統合すれば、このシミュレーションのような過度な小規模化にはならないのではないかと思います。(第2回)

③ 更に検討を要する課題等

- 大湊高校とむつ工業高校を統合した場合、新しい校舎を建設する場合とそれぞれの校舎を活用する場合があると思う。
新しい校舎を建設する場合、校舎が使用できる状態になるまで時間を要することが想定される。(第2回)

エ 第1期実施計画期間中に川内校舎を募集停止とする場合

| | 第3次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|-----|-------------|------------------|--------------|-----------|-------------|
| | | 第1期実施計画 | | 第2期実施計画 | |
| | | H29 | | H34 | |
| 重点校 | 田名部 5学級 | | 田名部 5学級 | | 田名部 5学級 |
| 拠点校 | 大湊 5学級 | △2学級 → | 大湊 ○学級 | △1学級 → | 大湊 ○学級 |
| 連携校 | むつ工業 4学級 | | むつ工業 ○学級 | | むつ工業 ○学級 |
| | 川内校舎 1学級 | △1学級 → | 川内校舎 募集停止 | | |
| 小計 | 15学級 | △3学級 → | 12学級 | △1学級 → | 11学級 |
| 地域校 | 大間 2学級 | | 大間 2学級 | | 大間 2学級 |
| 合計 | 17学級 | △3学級 → | 14学級 | △1学級 → | 13学級 |

① シミュレーションの基となった意見

- 第1回意見等記入票により、川内校舎をできるだけ存続してほしいと意見を述べたが、生徒数の減少を踏まえると難しいと感じた。(第2回)

② 期待される効果等

-

③ 更に検討を要する課題等

-

(3) その他の意見

(学科等について)

- むつ工業高校は、現在募集している学科を維持してほしい。(第1回意見等記入票)
- 下北地区には、原子力関係の資格取得に取り組むことのできる環境が必要だと考える。併せて、放射線管理士などの資格取得に意欲がある普通科等の生徒に対する学習機会の確保もお願いしたい。(第1回)
- 大間高校に大間町・佐井村・風間浦村の産業に根ざした学科を設置できないか。(第1回)
- 大間高校については、現在の2学級規模の中で漁業コースを設けることはできないものか検討する必要があると考えている。(第2回)

(生徒の通学について)

- スクールバスの費用について、保護者の負担が大きいことから、学校教育に関するバス運賃制度などについて国土交通省へ働きかけていくことも大事になってくる。(第1回)
- オール青森の視点で寄宿舎を活用することは大きな成果につながると考えるため、寄宿舎の活用を農業科以外の拠点校にも広げてほしい。(第1回意見等記入票)
- 北通り地区は、どうしても通学環境がネックになってくると思っている。大間高校は普通科しかないため、北通り地区からの通学環境を良くすることを考えてほしい。(第2回)

(その他)

- 現在、本県の中学生の高校等への進学率は約99%であるが、高校の募集人員を削減した場合、進学率を維持できるか危惧している。(第1回)
- 学級減を前提に議論を進めているが、高校は義務教育ではないので他地区からの生徒を受け入れるなど学級減とならないようにするための議論も必要だと思う。他地区や他県から生徒を受け入れないと学級減になってしまうということを市民に周知してほしい。県教育委員会において、市民レベルで保護者や企業が真剣に議論する機会を設けてほしい。(第2回)
- 町村部において中学校卒業生数を増やすということはかなり難しいと思っているので、視野を広げて全国募集してはどうかと考えている。(第2回)
- 距離のある拠点校との連携についての環境を整備してほしい。(第1回意見等記入票)

3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

- 基本方針の方向性に賛同する。様々な事情を抱える生徒が高校教育を受ける機会として絶対に必要である。(第1回意見等記入票)

【参考1】委員名簿（下北地区）

（敬称略）

| 区 分 | 所 属 等 | 委 員 名 | 備 考 |
|---------------------------------|---|---------|-----|
| 市町村教育委員会 | むつ市教育委員会 教育長 | 遠 島 進 | |
| | 大間町教育委員会 教育長 | 佐 藤 桂 一 | |
| | 東通村教育委員会 教育長 | 奥 島 涼 子 | |
| | 風間浦村教育委員会 教育長 | 越 膳 泰 彦 | |
| | 佐井村教育委員会 教育長 | 祐 川 俊 樹 | |
| P T A | むつ市連合P T A 会長 (むつ市立むつ中学校P T A 会長) | 二本柳 信 行 | |
| | 下北郡連合P T A (大間町立大間中学校P T A 会長) | 傳 法 厚 史 | |
| | 青森県高等学校P T A連合会 下北むつ地区協議会 会長 (県立むつ工業高等学校P T A 会長) | 大 見 竜 人 | |
| 産 業 界 | むつ商工会議所青年部 副会長 | 佐 藤 俊 介 | |
| 小 中 学 校 校 長 会 | 下北小学校長会 会長 (むつ市立第一田名部小学校 校長) | 長 内 喜美穂 | |
| | 下北地方中学校長会 会長 (むつ市立田名部中学校 校長) | 阿 部 謙 一 | |
| | 元県立むつ工業高等学校 校長 | 相 馬 俊 二 | 進行役 |

【参考2】オブザーバー名簿（下北地区）

（敬称略）

| 所 属 等 | オブザーバー名 | 備 考 |
|---------------|---------|-----|
| 県立田名部高等学校 校長 | 三 戸 延 聖 | |
| 県立大湊高等学校 校長 | 福 士 広 司 | |
| 県立大間高等学校 校長 | 安 達 健 夫 | |
| 県立むつ工業高等学校 校長 | 蝦 名 博 | |
| 県立むつ養護学校 校長 | 川 口 晃 世 | |

【参考3】地区意見交換会の開催状況（下北地区）

| 回 | 年月日 | 内容 |
|---|-------------|--|
| 1 | 平成28年 9月16日 | ○学校規模・配置に関する意見発表 |
| 2 | 平成28年11月15日 | ○第1回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換 |
| 3 | 平成29年 1月23日 | ○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換 |